

第3回 鶴川西地区小学校新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事録

開催日時	2023年12月18日（月） 10:30~12:06	
開催場所	町田市立鶴川第四小学校 家庭科室（ウェブ会議併用）	
出席者 （敬称略）	委員	◎鰻坂委員、○悴田委員、岩永委員、沼尻委員、勝瑞委員、柄澤委員、竹村委員、功刀委員、田中委員、大隅委員、仲村委員、浅沼委員、河本委員 （◎：会長、○：副会長）
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、指導課、教育センター、子ども生活部児童青少年課
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

1 第2回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課 （資料1説明）

2 報告事項

（1）施設整備について（2026~2029年度）

施設課 （資料2-1説明）

委員 資料に「2025年度に統合時の教室数確保のため施設整備する。」と記載がある。鶴三小は一番多いときに30学級あった。2026年に統合するとき、鶴四小の児童はほとんど、鶴三小と一緒になると思われるが、私は、現鶴三小の児童は半数以上が鶴二小へ行ってしまわないかと思っている。全体では18学級ぐらいかと思っているが、教育委員会の案では教室数が少し足りないと考えている。

鶴四小には特別支援学級があるので、教室が更に4つか5つ必要。もう少し詳しく、教室転用工事の内容を教えてください。

施設課 前回の推進協議会で、教室の転用工事の内容を説明した。2025年度に改修を行う内容としては、普通教室を24学級で考えている。特別支援学級は、6教室用意する。その他に、少人数教室で2教室整備し、サポートルームと特別教室を整備する。18学級ではなく、施設課では24学級必要と考えている。

プレハブ校舎を建てる予定はない。

委員 2029年度に新校舎が現在の鶴四小の場所に建つが、資料に校庭整地の工事があるので校庭はまだ使えないということか。

施設課 校庭の整地は、新校舎が完成した後に行う必要があるため、2029年度に実施する。ずっと校庭が使えないというのは難しいと思っているので、できる限り校庭を活用しながら整地を進めていければと思っている。

鶴一小の建て替えの際も、校舎を建てた後に校庭整地の工事を行っている。その間も体育授業や校庭遊びの場所は確保しながら工事を行えたので、全く校庭が使えないことはない。

(2) 新たな学校づくりに伴う学童保育クラブ及びまちともについて

児童青少年課 (資料2-2説明)

委員 鶴三小と鶴四小の学童の指定管理者が違う。そのため2026年の統合時に指定管理者が今の指定管理者と違う場合に、子どもたちの顔と名前が一致する指導者が誰もいないということになる。指導員の配置について配慮してほしい。

また、車での送迎について、近隣に住んでいる人に迷惑をかけている。交通事故が起きないか心配である。統合した後は駐車場を整備して、安心して送迎ができるようにしてほしい。

児童青少年課 1点目の指定管理者について、指定管理者制度は5年が基本的な指定期間で、5年ごとに事業者を公募して選定していく。そのため、事業者が変わる可能性はある。ご心配されている指導員が全員変わってしまうのではという点は、事業者同士の引継ぎ期間を設けたり、従前の事業者に対して雇用の継続に関する配慮をお願いをしていく。

ただ、雇用条件が希望に合うかということもあるので、必ずしも残ってもらうことを約束できるものではないことは理解してほしい。

2点目の駐車スペースについて、学童保育クラブは学校の登下校と同様に、基本的には、子どもたちが自分の足で安全に帰れることを前提とした安全対策を中心にやっていきたいと考えている。ただ、保護者のなかには、遅い時間になると、車で迎えに行きたいという方もいるため、様々なニーズに応えられるよう、事故や近隣の方へ迷惑にならないよう駐車スペースの整備をしていこうと進めている。

会長 鶴三小に車で来校する場合、学校の裏に駐車スペースはある。ただ、そのスペースに車を入れて、保護者が迎えに来ないと思う。なぜなら、お迎えに便利な鶴川中央公園の道路に駐車してしまう。一番大事なことは、子どもが事故に遭わないこと。

児童青少年課 入会説明会などで、保護者には、学校の登下校と同様に、子どもが自分で歩いて帰ることが原則であることや、子どもたちが安全に帰れるような安全指導を行っていることを説明している。どうしても車で来る場合は、コインパーキングを利用するなど、路上駐車をしないで欲しいと再三お願いをしているが、実態が伴っていないところもある状況は把握している。引き続き子どもの安全を第一に、駐車は必ず安全なところにしてほしいお願いをしていく。学校統合においては、通学距離が長くなることの安全対策を補完するために学校に整備する駐車スペースの活用をしていく。

委員 鶴四小のまちともを運営しているが、鶴三小はまちともで2部屋使っており、管理が大変そう。鶴四小は1部屋で運営あり、外にも出やすい。統合のときに、広いスペースがあるといいのが要望。

それから、学童との関係で児童が交差することがある。学童からまちとも遊びに来るタイミングがある。

それから、夏休みは図書室を利用している。本を読める環境があり非常にいい。た

だ、鶴四小は図書室が上の階にあるので外遊びとの連携はうまくいかない。教室の配置は難しいと思うが、鶴三小と統合した際にそういったことを考慮してほしい。

委員

1つは、2026年度から2028年度のタイミングのとき、現鶴三小の学童スペースをそのまま使うと思うが、1人あたりの保育スペースに規定があると聞いた。おそらく、子どもの数が約2倍になると思うが、既存の学童のスペースで賄えるという数字的な見通しがあるのか。

もしその基準を超えた場合、教室のタイムシェアをするのか。

施設課

教室転用工事の際に学童の教室についても整備する。現在は体育館の下の空き教室を学童で使っていると思うが、学童の正面の視聴覚室や会議室などをタイムシェアで活用することを考えている。そのため、もともとの既存スペースにプラスして他の教室を学童で使う予定である。

委員

それで収まらないならタイムシェアという考えか。

児童青少年課

教育委員会では、保護者に対して、鶴川東地区と鶴川西地区の児童がどちらの学区を選ぶかアンケートを実施している。それを踏まえて、児童がどちらの学童を利用するか情報共有し、利用数を想定しながら進めている。タイムシェアという形も必要になれば、学校にお願いをすることになるが、現時点では、資料にあるスペースで足りる見込みである。

委員

まちともについて、「タイムシェア」という言葉の受取り方が難しいと思うが、実際に鶴四小でまちともが使っている教室は「集会室」という部屋になっている。だが、実際はまちともが占有している。それをタイムシェアというふうに言うのか。先ほどの答で鶴三小の視聴覚室も学童とタイムシェアするという名目で、学校は使わない教室ということで運営していくと思っている。

まちとものお趣旨で、特別教室をタイムシェアすることを前提とした事業というのは説明で分かったが、タイムシェアすることで、学童のタイムシェアとの兼ね合いや、既存の鶴三小の教室転用工事で学童もまちとももタイムシェアできるような教室ができるのか。

あと、タイムシェアをまちともがすることが大前提なため、まちともは場合によっては活動場所が毎日変わることもあるのではと思っている。

鶴三小の教室転用工事をするとしても、活動場所が作れない場合が出てくるなら校庭を潰してでもプレハブを建てて、子どもたちが安心して、毎日決まった場所で活動できる方がいいと思う。

地域の方には怒られるかもしれないが、予算がないなら、歴史の継承でお金を使うなら、ぜひ今の子どもたちにお金を使ってほしいと思う。

児童青少年課

学童とまち共のタイムシェアについて、学校の放課後の時間帯を子どもたちのために使わせてもらっている。

例えば、学童でタイムシェアを行う場合、低学年の児童は下校時間が早いため、学童専用の施設を使い、高学年の児童は下校時間が遅いため、学校の教育活動が終わった後からタイムシェアという形で場所を借りるなどの運用も考えられる。また、

学童の荷物について、現場の職員からはできれば学校とタイムシェアをしている場所に置かせて欲しいという要望はあるものの、日中は学校で使っているため、学童としても工夫しながら運営していく必要がある。

現状においても、学校にはとても協力をしてもらっており、タイムシェアでの運営は可能であると思っているので、新校舎の建設期間の3年間に既存の校舎でやりくりしたいと思っている。

また、新校舎になっても、ほかのいろいろな施設や機能が複合化してくるので、タイムシェアは避けられないところであると思う。今後、各学校とは細かいルールなどを個別に相談させていきたい。

委員

送迎の実態が変わってきたと思う。朝の鶴四小の登校風景が、保護者が一緒に連れてくることもある。それから、夕方に学童から1人で下校する子は少なくなった。私は保護者たちに、夕方の学童は絶対に迎えにきなさいと伝えていた。

川崎市の小学校は、迎えに来ない家庭は学童に入会させないという制度にしている。私は、時代の流れだと思っている。6時過ぎに1人で帰れることが自立という考えは、なかなか保護者に説得力がなくなっていると思う。

委員

鶴四小の学童を使っている。まず、鶴四小は、学童が徒歩圏内とは思えない。基本的に学童は低学年が圧倒的に多い。1年生の4月、5月に小柄な子が歩ける距離ではないと思う。それは夕方だからとかいう話しではなく、朝でも同じである。真光寺の方から歩ける距離ではない。そもそも、これを徒歩圏内が前提としていろんなことを考えて進められるのをまず見直してほしい。

あと、学童利用者として夏休み中等の昼食提供については、できるだけ早く決めて進めてほしい。

児童青少年課

徒歩で通うことについて、学童だけでなく、学校も歩いて通学することが基本になっている。こちらは学童のことだけではない。

昼食提供については、いろいろと検討を進めているところ。今、実際検討していることとしては、昼食のニーズやメニュー、値段等を整理して事業者の利益になるか等を見込み、できるだけ利用してもらえそうなサービスとして考えていきたい。

施設課

学校施設のタイムシェアによる活用のこともあるので、今回の推進協議会のときに、鶴三小の校舎の教室の使い方イメージを示していく。

いずれにしても、学校の活動と学童とまちとものそれぞれの活動ができないというようなことがあってはならない。また、駐車場の件も、学校の前の道路に路上駐車をすることが問題になっていることは承知しているので、学校裏の駐車スペースに駐車してもらおうが、駐車スペースの整備をして、夜迎えに行ったときにも使えるような対応をしたいと思う。併せて2月の推進協議会のときに駐車スペースの整備についても説明する。

(3) 荷物らくらく登校の試行報告について

新たな学校推進課 (資料2-3説明)

委員

給食用の白衣は児童が持ち帰って家で洗濯してこなければいけないものなのか。学校でみんなが使うもの。学校で洗濯すればいいとの発想があるといい。

私は、30年くらい前にアメリカの学校を視察したが、児童が配膳をしている学校は1つもなかった。ランチルームなどで食べる。それがないところでも、普通教室で食べていた。配膳をするのは全部保護者。保護者が毎日来て、4時間目が終わったときに、隣の教室で給食の準備ができています。小学1年生に、お味噌汁のような熱い食べ物を配膳させる。それが自立というのは教育の発想を変えていかないとはいけないと思う。

また、クロームブックで漢字の書き取りをする宿題があるが、漢字の書き取りは紙の上にはっきり書かないと駄目。漢字の練習にならない。指先で書いてそれで宿題をやったって言っても、本当に教育上どうなのかとったりする。

(4) その他報告事項について

新たな学校推進課 (資料2-4・資料2-5説明)

3 検討事項

新たな学校推進課 (資料3-1説明)

委員

VRは要るのか。費用がどのくらいかかるのか。

思い出というのは鮮明に残す必要はないと思っている。VRにお金をかけてほしくないと思う。

つい先日、PTAの忘年会をやってみた。鶴四小出身者が多かった。震災のとき、あそこでパンが買えたとか、鶴川に住んで3年目だが、すごく刺激があり、面白く聞かせてもらった。そういうぼんやり残していく方法というのを文化として残していったほうがよっぽど楽しいと思う。このVRは幾らかかるのか。

新たな学校推進課 1校当たり130万円程度で見込んでいる。

委員

PTA室にある絵を見てほしい。「若鶴よ」という石がある。鶴四小が建ったときに造られた。誰かが描いた絵があるが、写真かなと思うぐらいまい。例えば、VRでなくてもみんなで絵を描いて残そうといって、担当を決めてやったほうが個性が出ていい。それはお金がかからない。

あと、VRで残した場合、見る人はどれだけいるのか。VRで残したい人が100人中99人いたら何も言わないが、この場にいる人でVRとして残したい人がそんなにいない気がしているが、その辺も踏まえた上で予算感や、費用の使い方を示してほしいと思う。

委員

小学校42校のうち、統廃合の対象になっていないのは9校で、残りの33校が2040年までに統廃合で学校名が変わる。そうすると、歴史の残し方は33校全てに共通するものでない。鶴三小や鶴四小はここまでやって、これだけ金をかけた。何でうちのほうの学校はこうなのかと、そういうものが出てくると思う。ある程度統一したものにすべきと思う。個人的には、もうそれ以上何かやりたいならその学校

のPTAや同窓会、地域とかが金や何かを出してやればいいことだと思う。

それで、ほかの市でどのようにしているかを調べてみた。多摩市は全部の小学校、中学校だけでなく、統廃合になってなくなった小学校を検索すると、その学校の設立年月日や、沿革史が載っていて、校歌や作詞者も載っている。

町田市も、小学校とかで検索すれば全部出てきて、学校名や、それぞれの学校の情報が全部出てくるといい。それ以上のことは各学校で、PTAから声を上げ、地域も一緒になって、やれたら良いと思う。

最後に、同窓会をしたときにこれだけは変わらない場所で1つだけ残るような場所を1つぐらい残せれば、それでいいと思う。

多摩市の場合、石碑で小学校跡地がわかるように造ってある。だから、鶴三小がなくなった場合には、小さな石碑が建てられるようになるといい。

新たな学校推進課 この歴史の継承について、費用のかけ方や記録の残し方について、どのくらいやるのか、とても難しいと思っている。他地区でも話しているときに、基本的に新しい学校になるから、何も残さなくてもいいのではないかという方もいる。ただ、そこに学校があったということ大切にしてほしいという方もいる。郷土資料館的なものを作ってほしいという方もいる。すごく悩ましい。

費用の点では、物を残せば残すほどかかると思っている。例えば、今学校の中にある石碑みたいなものを残してほしいということであれば、それを動かす費用が掛かる。100万円とかでは足りない費用がかかる。違う地区では、シンボルとなる木を絶対に切らないでほしいなどの要望がある。これはとても悩ましいところ。映像に関してはちょっと高いと感じる方もいると思う。ただ、映像に残すことにより、物を処分しても、物を残してほしい方々の思いを少しだけ和らげる部分もあるのかなと思っ提案している。

委員 歴史の継承という問題に関しては、いろいろな意見がある。残すべきものやそれにかかるコストの問題があるけれども、基本的には、残せるべきところは残すべきと思っている。一番は、ボランティアでいかにうまく映像をつくるか。例えば、私は毎年、町内会の活動アルバムを出しているが、大体60ページから70ページぐらいのオールカラーを印刷会社で印刷して出している。今年は1500冊印刷して大体12万円。1冊につき80円。

その写真は、プロに撮らせてうまい写真を撮ればいいが、普通の家庭の主婦が自分たちの活動をやりながら撮っている。だから安くなる。VRも簡単にできる。

機材も、1つの学校や町内会・自治会の中に、そういう趣味の人が絶対にいる。そういう人を探して、そういう人につくってもらおう。そうすれば、経費の節減なんか簡単にできる。業者に出すからVR1本100万円かかる。例えば地域でVRの仕事をやっている人を探して、そういう人にボランティアでやってもらってやれば10分の1以下の費用でできる。

そういうことは、PTAや町内会・自治会等の活動の中で掘り下げて、そして、それぞれの有機的な地域のそういう人的な資産をうまく活用して、歴史は残していっ

たほうが良いと思う。

委員

判断材料としてコストは大きいと思う。この完成度であれば、この金額。というように提案してほしい。そうでないと、判断材料として難しい。これが例えば、12万円で作るとなればやっていいということになるが、再生回数が低ければ1人当たりいくらかけたのかという話しになる。

やるのであれば、新しくできる校舎にしたほうが良い。新しい校舎に対してVRを入れたほうがずっとマーケティングの観点からいいかと思う。そうすることによって、ここの地域の活性化というすごく大きいところの視点で見たときにものすごく意味があることになってくる。これから住もうと思う人たちは必ず閲覧するので、すごくいい材料にはなるかなと思う。

ただ、今まで、そういえばあの学校なくなったよねといってVRを見る人がどれだけいるかというところ。そういうところで比較しないといけないと思う。

だから、さっきの石碑や校舎に残っているもの。そういう残っているもので現実的に残せるものにコストをかけて、費用対効果を考えると、130万円の価値があるかという話になってくる。今せっかく資料を出してもらっていて、案とかも出ているが、全部金額を出してほしい。

結局、やっぱりコストがいくらかというところがないと決め切れない。こういう案がありますと提案されても、これはいくらかかるのかということになってくる。そうでなければ、この案は良いなという話になってこない。だから、すごくぼよっとしていつも終わっている。歴史の継承は3回やっているが、費用を出してほしい。

委員

歴史というのは、単に費用対効果で計算するものではないと思う。私は以前に鶴四小のPTAの会長をしたが、色々な行事をするときに、鶴四小はPTAがお金をためていた。何か事業をやるときの資金として100万円ぐらいは常に持っていた。周年行事などで使っていた。仮に事業そのものに対して、まず予算を立て、その予算をつくるときに、業者に出せばいくらかかるのか、これは簡単に出てくる。ただ、自分たちでつくったらいくらというのはそう簡単には出ない。

それから、上手い・下手というのもある。歴史の継承は、そのときに100万人の人が振り返るからいいのではなくて、私たちが日本の歴史や地域の歴史を見るときに、ぱっと振り返り立ち返る。それを仮に見る人が、1人しかいなかったとしてもその人が郷土史などで活用するかもしれない。

例えば、この地域は自由民権運動が盛んだった歴史もある。それから、江戸時代に一揆がなかったという歴史もある。地租改正の問題でも、論文ぐらい書くことができる材料がたくさんある。残すことで資料的価値になるので、費用対効果のそろばん勘定だけではなく、自分たちがどれだけのを残せるかが重要と思う。

それは現実に今まで、例えば、私どものところなんかだったら真光寺町内会史というのを出した。それを見ると何が一番すごいかというと、明治5年の鶴川地区の全員の租税台帳、要は納税金額が全員載っている。今、そういう情報があれば、江戸時代から明治時代に移っていく過程においての地租改正をやった際の歴史的資料と

して非常に価値がある資料で、郷土史の田舎の町内会史でも資料として使える。そういうのは、消すのは簡単。自分たちで残してみないと分からない。それが文字であったり、映像であったり、いろんな形で残るわけだが、最初から費用対効果だけで考え、切り捨てるのではなく、自分たちで検討して、そして、資料として残すべきだと思う。

委員

今のPTAの実態では、温度感というか、PTAの組織自体をやめて欲しいという保護者がかなりの数いる。活動自体に悲観的な方々は一定数いる。PTAの組織自体、残していけるかどうかのレベルにあるので、ボランティアで学校のVRを撮ってくれるか声をかけたときに、手が拳がるかという話になってくる。

今年、鶴四小は付加価値についていろいろと動いている。そもそもの活動内容がなるべく負担がないようにオンラインを導入してみたり、基本的に学校に来てもらわなくてもできるように紙配付を廃止したりしている。今年度規定も変えた。

なので、来年度は大幅に活動内容としては軽減していくと思うが、それでもやりたくない保護者は一定数いるので、そういう事実もあることは把握して欲しい。

学校活動というのは既にすごくネガティブなのにも関わらず、自分の子どもたちに直接関係のない地域の活動をどれだけやってくれるかという話になる。目先の子ども、自分の子どもたちに直結するような活動ですらやらないというような考えを持っている、家庭があるにもかかわらず、さらに広く地域の活動やボランティアでやらない答えをする方たちは、ある程度はいると思う。

委員

保護者視点だが、さっき石碑を動かすのに何百万円もかかるかもしれないと言っていたが、委員が言ったように人足を手配できればできるかもしれない。その考え方は賛成で、例えば、重たい石をみんなで動かしてみようというイベントになると、やってくれる人は結構いると思う。そのようないろんな話合いをしていながらやっていかないといけないと思っていて、その中で子どもたちの意見というのが一番大事になってくると思っている。

例えば、石碑を残したい子どもたちがたくさんいる。それでは、大人たちの力を使ってみようという考え方がすごく自然だと思っている。今まで、参加して、この場に子どもたちの意見が出てきていないというのがとても違和感がある。すごく大事なことだと思うし、全員の意見を聞いてもらえないというのはあると思うが、例えば、子どもたちに、この学校で残したいものは何かという質問はした方がいいと思う。

例えば、今の子どもたちで知らない間に新しい校舎に移って、気がついたらもう鶴四小がなくなっていたという子も現れてくるだろうし、そこで、例えば残したいといったものが残されなかったという思い出も大事なことだと思う。何かそういったところの企画をできればと思っている。

これは一緒にやりたいということが大前提。もちろん、地域の方々にも協力したい思いがすごくあり、町内会に加入しているが、餅つきも、手伝いに行きたいと思っているぐらいで、そういった人はたくさんいるし、今回の統廃合については、もっと子どもたちの意見を聞いた上で、その意見があるのであれば、動いてくれる親も多

いと感じる。そういったことをきっかけとして人を集めることにつながっていければと思っている。

会長

(閉会の挨拶)